

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2010～2014

課題番号：22242003

研究課題名(和文) 人類の思想的営みとしての宗教遺産の形成に関する総合的研究 宗教遺産学の構築へ

研究課題名(英文) Toward a construction of a new concept of "Religious Heritage Studies"

研究代表者

上島 享(UEJIMA, SUSUMU)

京都大学・文学研究科・准教授

研究者番号：60285244

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 31,900,000円

研究成果の概要(和文)：西洋世界の文化的・学問的蓄積のなかから生まれた「文化遺産」とは、人類の文化的諸活動により生み出された有形・無形の文化財を指すとされ、有形・無形など文化財の形状に応じた様々な分類がなされている。本研究が目指す宗教遺産学とは、人類の思想的な営みこそが、宗教に関わる諸遺産を生み出す原動力になったとする見方に立ち、様々な形状の諸遺産に通底する宗教思想の分析に力点をおくことで、諸遺産を統合的にとらえようとするものである。東アジアや日本における具体的な事例研究より、宗教遺産なる概念の有効性を明らかにし、今後の研究の方向性を示した。

研究成果の概要(英文)："Cultural Heritage", which originates from cultural and academic studies in the Western World, consists of visible and invisible cultural properties created by human activities. Regarding "Cultural Heritage", properties are variously classified depending on their form. On the other hand, "Religious Heritage Studies", at which this research aims, is based on a conviction that it is ideological human action that became the motivation to create various heritages related to religion. This study tries to grasp various kinds of heritage by emphasizing religious thought connected with cultural properties. We clarified the effectiveness of the concept of "religious heritage" and established directions for our future research through specific case studies in Japan and East Asia.

研究分野：日本中世史 日本宗教史

キーワード：宗教遺産学 文化遺産 思想史 宗教思想

1. 研究開始当初の背景

(1) 西洋世界の文化的・学問的蓄積のなかから「世界遺産」なる概念が生まれ、1972年のユネスコ総会にて、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(世界遺産条約)が採択され、遺跡・景観・自然など人類が共有すべき顕著な普遍的価値を持つ物件(移動不可能な土地や不動産)が世界遺産リストに登録されることとなった。

(2) この世界遺産を主に支えるのが「文化遺産」なる概念で、世界の諸遺産の学問的検討は「文化遺産学」という範疇を中心として行われてきた。当初、「文化遺産学」の研究対象となったのは、遺跡・仏像・建造物などの有形遺産で、モノそのものの分析に重点が置かれてきた。その後、無形遺産にも概念を拡大して、多様な遺産を包摂する概念として現在では「文化遺産」が使用されている。

(3) 通常、文化遺産は Monument(記念物)、Group of Buildings(建築物)、Site(遺跡)に分類されることが多く、遺産はその形態・形状に応じて、細分化されていると良い。しかし、かかる形状による分類では各遺産が持つ特質や意義が捨象されていると考える。

(4) われわれが構築を目指す宗教遺産学は、形態・形状により分類されてきた諸遺産を統合的にとらえ直すために、諸遺産を生み出した思想に注目して、思想がいかに遺産を生み出してきたのかという視点から、遺産学の再構築を目指すものである。形状が異なっても、同じ思想により生み出された遺産は共通するものとして認識することとなる。

2. 研究の目的

(1) 宗教遺産学が目指そうとするのは、人類の思想的な営みこそが、宗教に関わるモノ(有形遺産)やコト(無形遺産)を生み出す原動力になったとする見方に立ち、思想がどのようにして形成されたのか、そして、その思想がいかにしてモノ・コトを創出してきたのか、を解明することを目的とする。つまり、ヒトが、自らをとりまく時代状況や社会状況(政治・経済・文化)のなかで、いかにして思想や、それを具現化した遺産(モノ・コト)を生み出してきたのかを解明することが、本研究が目指す宗教遺産学なのである。

(2) とりわけ「宗教」に注目するのは、諸遺産の多くが何らかの形で宗教との関わりを持ち、人類が有する宗教的動機こそが諸遺産を生み出す(破壊する)主たる原因であったと考えるからである。文化遺産の中でも宗教に関わる遺産を対象とすることになるが、それは量的にも文化遺産の多くを占めるものとする。

(3) われわれが構築を目指す宗教遺産学は、現在の文化遺産学のあり方を批判的に捉え、新たな学問体系の構築を目指すものである。しかしながら、新たな文化遺産学の枠組を宗教遺産学と表現したものであり、含意が達成

されるならば、「宗教遺産学」という表現には必ずしもこだわるものではない。

3. 研究の方法

われわれが目指す宗教遺産学を構築するために、次のような方法を採用した。

(1) 日本に足場を置きながら、広く中国・朝鮮半島をも視野に入れて、東アジアの遺産に立脚した新たな学問体系の構築を目指す。つまり、西洋世界のなかから生まれた「世界遺産」をはじめとする「遺産学」を一旦相対化したうえで、最終的には、それをも包括した新たな遺産学を日本より構築しようとする試みである。

(2) 具象化された有形・無形遺産のみならず、その背後にある思想(哲学)に注目し、形而上の思想(哲学)と、形而下にある現実の社会のなかから生み出された有形・無形の遺産とを統合的に捉える概念として宗教遺産を設定する。これは、考古学・人類学・美術史学・宗教学・哲学・歴史学・文学など諸学問分野に分断された人文諸学を宗教遺産学という視角から統合しようとする試みでもある。

(3) 具体的な研究方法としては、既存の思想的・理論的な枠組に依拠するのではなく、個別・具体的な事実・事例に一旦沈潜した上で、そのなかから新たな議論の枠組を立ち上げていき、普遍的な学問体系の構築を目指すものである。

4. 研究成果

個別の研究成果は下記の「5. 主な発表論文等」の通りあるが、本研究の主たる研究成果は2014年10月10.11日にアメリカハーバード大学ライシャワー研究所で実施した成果報告シンポジウムで報告し、アメリカの研究者よりコメントや批判、教示を得た。シンポジウムでは、フルペーパーの予稿集(全200頁弱)を作成した。その構成は以下の通りである。

第1パネル 日本における文化財保存と遺産学の現状と課題

- ・高木博志「近代日本の文化財保護と「日本文化」」
- ・上杉和央「日本の「文化財」概念の現状と課題」

- ・山岸常人「文化財保存の実態と歴史研究 寺社建築を中心に」

第2パネル 東アジアの思想・儀礼より遺産学を考える

- ・眞壁仁「日本における儒礼の受容と展開 昌平黌の積奠改革を中心に」
- ・中純夫「宗教遺産学の射程 中国文廟従祀制度をめぐる」

- ・岡本隆司「儒教の運命と近現代中国」

第3パネル 宗教空間より遺産学を考える

- ・菱田哲郎「日本古代における宗教空間の形成」

- ・阿部泰郎「聖徳太子の宗教遺産 法隆寺上宮王院の宗教空間と聖遺物としての太子宝物」
- ・阿部美香「宗教遺産としての融通念仏縁起 絵巻 絵巻が創造・展開する宗教空間」
- ・山本聡美「宗教遺産としての中世仏教説話 画 聖衆来迎寺蔵「六道絵」閻魔王庁幅に集積された知を読み解く」
- 第4パネル 宗教遺産学の構築に向けて 全体を統括して
- ・阿部拓児「メソドロジーとしての宗教遺産学 日本人西洋古代史家の視点から」
- ・川瀬貴也「宗教遺産学と近代宗教概念」
- ・上島享「日本の宗教文化の特質を考える 宗教遺産学 が目指すもの」

本シンポジウムについて、アメリカ側からの研究者よりおおむね高い評価を得たが、改善点について具体的なアドバイス・提言があったことは大きな成果を考える。

これを踏まえて、現在、本シンポジウムの内容を核として、しかるべき書肆より出版することで準備を進めている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計16件)

- 上島享、本願手印起請の成立、鎌倉遺文研究、査読有、49号、2015、55-68
- 上島享、宇多上皇の宗教活動と熊野、和歌山県立博物館研究紀要、査読無、21号、2015、33-39
- 上島享、真言門跡寺院における文書と日記、『日記・古記録の世界』(思文閣出版) 査読無、2015、493-514
- 上島享、金峯山信仰史再考、説話文学研究、査読有、49号、2014、55-68
- 上島享、鎌倉時代の仏教、『岩波講座日本歴史 第6巻』(岩波書店) 査読無、2013、235-272
- 上島享、勸進と聖、立教大学日本学研究所年報、査読無、10.11号、2013、86-97
- 上島享、中世仏教 再考、日本仏教総合研究、査読有、10号、2012、89-116
- 阿部泰郎、中世宗教テキストとしての和歌と唱導、仏教文学、査読有、39号、2014年
- 井上直樹、『裴遺業墓誌』と高句麗、『金壺集』(石田肇先生退職記念事業会) 査読無、2013、99-109
- 井上直樹、六世紀末から七世紀半ばの東アジア情勢と高句麗の対倭外交、朝鮮学報、査読有、221号、2011、1-42
- 上杉和央、軍港都市と近代の文化遺産、京都府立大学学術報告、査読無、63号、2011、1-16
- 王衛明、唐・宋時代における仏牙舍利伝来の諸相、京都橘大学研究紀要、査読無、41号、2015、293-310

- 岡本隆司、モンゴル「独立」問題と漢語概念、東洋史研究、査読有、2015、105-139
- 中純夫、樺村沈鎔における華夷観念と小中華思想、『アジア遊学 179 朝鮮後期の社会と思想』(勉誠出版) 査読無、2015、158-180
- 中純夫、高橋亨「朝鮮の陽明学派」訳注、東洋古典学研究、査読無、36号、2013、43-104
- 眞壁仁、内村鑑三『日本及び日本人』を読む、丸山眞男記念比較思想研究センター報告、査読無、7号、2012、25-28

〔学会発表〕(計15件)

- 高木博志「近代日本の文化財保護と「日本文化」」「人類の思想的営みとしての宗教遺産の形成に関する総合研究」の成果報告シンポジウム、2014年10月10.11日、ハーバード大学ライシャワー研究所(アメリカ)
- 上杉和央「日本の「文化財」概念の現状と課題」 同上
- 山岸常人「文化財保存の実態と歴史研究 寺社建築を中心に」 同上
- 眞壁仁「日本における儒礼の受容と展開 昌平黌の積奠改革を中心に」 同上
- 中純夫「宗教遺産学の射程 中国文廟従祀制度をめぐって」 同上
- 岡本隆司「儒教の運命と近現代中国」 同上
- 阿部泰郎「聖徳太子の宗教遺産 法隆寺上宮王院の宗教空間と聖遺物としての太子宝物」 同上
- 阿部拓児「メソドロジーとしての宗教遺産学 日本人西洋古代史家の視点から」 同上
- 川瀬貴也「宗教遺産学と近代宗教概念」 同上
- 上島享「日本の宗教文化の特質を考える 宗教遺産学 が目指すもの」 同上
- 上島享「金峯山信仰史再考」 説話文学会例会、2013年4月20日、慶應義塾大学三田キャンパス、
- 上島享「13世紀中葉における「日本仏教」の変遷をめぐって」、「New Sources for the Study of Japanese Religious International Workshop」2014年3月14~16日、プリンストン大学(アメリカ)
- 上島享「Re-visioning “Japanese Buddhism” in East Asia Buddhist History」,An international symposium “Religious Performance, City and Country in East Asia” ,2013年10月9.10日、イリノイ大学(アメリカ)
- 上島享「鎌倉仏教形成史をめぐって」 東アジア仏教研究会年次大会、2012年12月1日、駒澤大学
- 上島享「勸進と信仰」 立教大学日本学研究所10周年記念国際シンポジウム、2012年11月3.4日、立教大学

〔図書〕(計4件)

岡本隆司、岩波書店、『袁世凱 現代中国の出発点』、2015、225

岡本隆司、筑摩書房、『中国近代史』、2013、273

上島享・上杉和央編、京都府立大学文学部歴史学科、『熊野信仰と景観 宗教遺産学の試み』、2013、234

阿部泰郎監修、大須観音宝生院、『大須観音 いま開かれる、奇跡の文庫』、2013、253

6. 研究組織

(1) 研究代表者

上島 享 (UEJIMA Susumu)
京都大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：60285244

(2) 研究分担者

山岸 常人 (YMMAGISHI Tuneto)
京都大学・大学院工学研究科・教授
研究者番号：00142018

東 昇 (HIGASI Noboru)
京都府立大学・文学部・准教授
研究者番号：00416562

高木 博志 (TAKAGI Hiroshi)
京都大学・人文科学研究所・教授
研究者番号：30202146

眞壁 仁 (MAKABE Jin)
北海道大学・大学院法学研究科・教授
研究者番号：30311898

川 瀬貴也 (KAWASE Takaya)
京都府立大学・文学部・准教授
研究者番号：30347439

中 純夫 (NAKA Sumio)
京都府立大学・文学部・教授
研究者番号：50207700

王 衛明 (OU Eimei)
京都橘大学・文学部・教授
研究者番号：50248613

向井 佑介 (MUKAI Yusuke)
京都府立大学・文学部・准教授
研究者番号：50452298

阿部 泰郎 (ABE Yasuro)
名古屋大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：60193009

岡本 隆司 (OKAMOTO Takashi)
京都府立大学・文学部・准教授
研究者番号：70260742

上杉 和央 (UESUGI Kazuo)
京都府立大学・文学部・准教授
研究者番号：70379030

井上 直樹 (INOE Noki)
京都府立大学・文学部・准教授
研究者番号：80381929

藤本 仁文 (FUJIMOTO Hitofumi)
京都府立大学・文学部・准教授
研究者番号：90580580

阿部 拓児 (ABE Takuji)
京都府立大学・文学部・准教授
研究者番号：90631440